

社会教育委員会議提言

「コミュニティセンターのあり方と地域・学校・子どもたちとの関わりについて」について

1 審議するテーマの設定にあたって

市民部のコミュニティセンターは、地域に最も身近な、市民の生涯学習を支援する施設だが、利用はシニア層が大半を占めていることが課題となっている。このため、施設のあり方と学校や子どもたちとのかかわり方について、施設へのアンケート調査や現地視察をとおして研究調査を行うことにした。

2 コミュニティセンターの現状把握

アンケート項目を審議し、全施設にアンケート調査を実施し、北下浦コミュニティセンター（旧公民館と旧地域自治活動センター）を視察した。

3 コミュニティセンターのあり方について

様々な課題を大きく4つの課題に分類した。

(1) 定期講座・講演会・講習会等

地域づくり・地域課題対応を目的の講座、講義以外の参加型学習、市民と協働した講座、各地域の事業数の均衡化、各館担当者の連絡会議、講座後の事業評価を企画に生かす

(2) 情報収集提供について

施設を知ってもらうためのPR、ツイッター等の新たな広報媒体の活用

(3) 施設利用について

世代間がつながる施設となるための努力、学習や文化活動の発表の場として活性化

(4) 職員について

非正規雇用職員の実情にあった研修、各施設職員間の連絡会の設置、職員の業務へのモチベーションを高める機会

4 提言概要

(1) 定期講座・講演会・講習会等

- ・講座に参加するだけでなく、市民に企画側に参画してもらう。
- ・地域づくり、人づくりにつながる講座にも取り組む。
- ・学校の協力を得ながら、若年層に講座の企画運営の参画を呼びかける。
- ・講座の企画運営に参画した児童生徒に参加証を発行するなど、認証の仕組みづくり検討。

(2) 情報収集提供

- ・子どもたちの学習成果の発表の場として施設が利用できることを学校にPRする。
- ・多世代に知らせるため、ツイッター等の新しい広報手段を検討する。
- ・行政は学校とコミュニティセンターをつなぐ役割を持つ。

(3) 施設利用

- ・空き時間帯の児童・生徒の自学・自習の場としての活用の検討
- ・学校向けにコミュニティセンターを紹介するコミセンツアーの実施
- ・図書室で読み聞かせなど、話しながら活動することができる時間帯などの検討

(4) 職員

- ・職員が意見交換・情報交換できる機会を増やす。
- ・アンケート等の高評価の意見を見える化し、職員のモチベーションアップを図る。